

令和6年度 教科研修会 I に向けた授業の構想

美術科

1 美術科の研究テーマ

創造的に考えを巡らせる力を高める学習の在り方

2 美術科として育成を目指す資質・能力の受け止め (研究テーマに示す力が高まっている生徒の具体的な姿)

- ・ 感じ取った美しさを表すために、水彩絵の具の混色や重色の効果を生かして着彩方法を考えている姿 (1 学年、表現領域)
- ・ 客観的な見方や捉え方をふまえて、生活を彩る布に描かれているものやその配置などの表現の工夫について考えを整理している姿 (1 学年、鑑賞領域)
- ・ 抽象的な概念を表すために、複数の材料の性質や特徴を生かしてその組合せを考えたり、形のデフォルメを考えたりしている姿 (2 学年、表現領域)
- ・ 作品を描いた時代や社会的背景、作者の作風をふまえて、作者の心情や表現の意図について考えを整理している姿 (2 学年、鑑賞領域)
- ・ 目的と造形的な美しさとの調和のとれたデザインにするために、環境や相手との関わりから形や色彩、素材、配置を総合的に考えている姿 (3 学年、表現領域)
- ・ 描いた時代や社会的背景をふまえて写実主義やリアリズム作品における作者の心情や表現の意図を捉え、写実表現に対する考えを整理している姿 (3 学年、鑑賞領域)

3 題材名・学年 「身近な『美』を描く」・1年

4 題材の概要 (全 12 時間扱い 本時は第 6 時)

題材の学習問題

身近なものから感じた美しさを、どのように描けば表せるのだろうか。

題材展開

時間	学習活動
第 1 時	<p>◆ <u>美しいと感じたもののスケッチの仕方を考える</u> 【題材の学習問題】身近なものから感じた美しさを、どのように描けば表せるのだろうか。 【学習課題】美しいと感じた物の向きや視点に着目してスケッチしよう。</p>
第 2 時 ～ 第 4 時	<p>◆ <u>美しいと感じたものをスケッチして表す</u> 【学習課題】大まかな形の補助線や線の傾きを目安にしながらスケッチしよう。</p>
第 5 時 ～ 第 6 時 (本時)	<p>◆ <u>スケッチしたものの色合いの表し方を考える</u> 【学習問題】スケッチしたものの色合いを、水彩絵の具でどのように着彩すれば表せるのだろうか。 【学習課題】混ぜる色の量や色数による「色の 3 要素」の変化に着目して色を表そう。 【学習問題】混色以外の表し方でどのように色を表せばよいのだろうか。 【学習課題】重ねる色の濃さや順番による「色の 3 要素」の変化に着目して色を表そう。</p>
第 7 時～ 第 11 時	<p>◆ <u>スケッチしたものを水彩絵の具で着彩して表す</u> 【学習課題】混色や重色の効果を生かして着彩しよう。</p>
第 12 時	<p>◆ <u>完成した互いの作品を鑑賞して表現のよさや美しさを感じ取る</u> 【学習問題】友はどのような美しさを、どのように表したのだろうか。 【学習課題】形や色合いから感じた美しさや気付いた工夫点を書こう。</p>

美術科学習指導案

令和6年5月15日(水) 5校時 美術室

授業学級 1年A組(40名)

授業者 常田 浩二

1 題材名 「身近な『美』を描く」

2 主眼

※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している

混色以外の表し方でどのように色を表せばよいのかを考える場面で、重ねる色の濃さや順番による「色の3要素」の変化に着目して色を表すことを通して、重色による効果を理解することができる。

【A表現(2)ア(ア)、[共通事項](1)ア】

3 題材の学習問題：身近なものから感じた美しさを、どのように描けば表せるのだろうか。

4 本時の位置(全12時間中 第6時)

前時：スケッチしたものの色合いを表せるように、混ぜる色の量や色数を変えながら色を表した。

次時：重色や混色の効果を生かして着彩する。

5 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言 評価	時間
導入	1 学習問題を確認し、本時の見通しをもつ。	ア 平山さんは、「色の3要素」を調整しながら混色して落ち葉の色を表していると思ったが、友が指摘したように重ねて色を表している部分もある。混色以外の色の表し方についても考えてみたい。	・前時に提示した平山和子の水彩画の画像を拡大表示して色の表し方を再確認する。 ・アのような反応から、学習問題を設定する。	10分
		学習問題：混色以外の表し方でどのように色を表せばよいのだろうか。		
		イ 青色に黄色を重ねたら緑色になった。混色の緑色よりも彩度が高いという友の意見もあったが、私にはまだよく分からない。 ウ 黄色を濃くすると明るい緑色になったし、青色を重ねると青味が強くなった。混色と同じ視点で、重ねる色による「色の3要素」の変化に着目して色を表してみたい。	・アジサイの葉を提示し、その色を表す想定で、重ねる絵の具の濃さや順番を変えながら着彩する示範を行い、色味や明度、彩度の変化を問う。 ・イやウのような反応から、学習課題を据える。	
		学習課題：重ねる色の濃さや順番による「色の3要素」の変化に着目して色を表そう。		
展開	2 スケッチしたものの色合いを重色で表す。	エ 私は、生えてきたばかりの桜の若葉の明るい色合いに美しさを感じた。若葉は黄味が強いので、青色の上に黄色を重色すればよいだろう。黄色の濃さを変えながら色味や明度を確認してみよう。 オ 明度は高いけれど、黄味が強すぎる。でも、青色を重ねると青味が強い。やっぱり黄色を重ねて、黄色の水分量を調整しよう。 カ 黄色を少し薄めて着彩したら下の青色がわずかに透けて見えて、混色とは違って彩度の高い若葉の鮮やかな緑色になった。 キ 同じ2色を重色しても着彩する順番によって色味がだいぶ違って見える。友はどうなったのだろうか。他にも気付いたことをまとめて、友の意見も聞いて参考にしたい。	・自分がスケッチしたものの色を表せるように、重ねる絵の具の濃さや順番を変えながら重色して確認することを確認する。 ・先に着彩した絵の具が乾いてから、重ねて着彩するように助言する。 ・下の絵の具の色合いが透けない場合、多めの水で薄めて重ねてみるように助言する。 ・重色して表した色同士を見比べて、「色の3要素」の変化の程度や、その変化の原因を問う。	25分
	3 重色の学習を振り返り、友と意見交換する。	ク 強調したい色味を上重ねた方が思い通りの色をつくれることや、下の色が透けるぐらいに水で薄めて上に重ねると鮮やかな色になることに気付いた。 ケ 友は簡単に様々な色をつくり出せるよさを混色に感じていたけれど、私は重色による鮮やかな色合いが若葉にはよいと思った。次回は、部分的に3色重ねた友の表現も参考にして若葉を着彩していこう。	・重色で着彩した色合い同士や、混色の色合いと見比べて気付いたことをスケッチブックにまとめ、友と意見交換する場を設ける。	
終末	4 用具を片付ける。	コ 今日つくった緑色は次回も使いたいから、パレットの濁ったところだけふき取って、他の所は洗わずに片付けよう。	・次回、使いたい色がある場合は、パレットを洗わずにしまうことを確認する。	10分
			重色による効果を理解することができる。(スケッチブック)	5分